

A. 前回レポート講評

1. サーチエンジンの特徴 なぜこういう順番に出てくるのか？

2. 用語と定義

○書式を守る ステイプラ 余白 ヘッダーとフッター 片面印刷 ページ付け
フォントは10ポイント以上

○用語について、きちんと理解するよう努める
附属と付属 ×筑波大学附属図書館

○Copy & paste

○SIST02
配付資料参照

○情報リテラシ

Information Literacy Competency Standards for Higher Education

高等教育のための情報リテラシ基準(ACRL)

<http://www.ala.org/ala/mgrps/divs/acrl/standards/informationliteracycompetency.cfm>

- 1 情報ニーズの明確化と情報源の知識
- 2 調査方法の知識と情報検索技術の習熟
- 3 情報と情報源の批判的な見方
- 4 得られた情報を自分の知識として組み込む方法
- 5 特定の目的のためにその情報を使いこなす能力
- 6 情報の探索と利用に関わる倫理や法の問題についての知識

コンピュータリテラシとの異同を意識すること

○情報の真正性
知識情報・図書館学、情報サービスにおいてこの問題は重要

○レポートで良い点を取るには

B. 今日のテーマ：雑誌記事/論文を探す 書誌事項をきちんと記す。

1. 雑誌とは？

一般雑誌 Magazine

学術雑誌 (Scholarly) Journal

査読 Peer Review

電子ジャーナル Electronic Journal

2. 英語は何？

雑誌記事/論文

雑誌最新号

雑誌バックナンバー

目次

索引

3. 雑誌記事/論文を探す

以下のサイエンス誌電子版の記事を探す

読売新聞 (2009年5月12日)

<http://www.yomiuri.co.jp/feature/20090425-436828/news/20090512-OYT1T00414.htm>

「新型」致死率、100万人超死亡「アジアかぜ」並み...WHO

新型インフルエンザ (豚インフルエンザ) の致死率は、世界で100万人以上が死亡した1957年のアジアかぜ並みの0.4%で、感染力も季節性のインフルエンザより高いとする分析結果を、世界保健機関 (WHO) と英国、メキシコの研究チームがまとめた。12日、米科学誌サイエンス電子版に緊急報告された。

メキシコ政府は12日現在、新型による感染者数は2059人、死者数56人と公表している。しかし実態は不明で、新型の正確な致死率や感染力は分かっていない。

研究チームは、データが正確な欧米の感染者数を基に、メキシコの出入国者数、感染者の広がりなどから逆算し、メキシコでは4月末までに6000~3万2000人の感染者が発生、致死率は0.4%に上るとする推計をまとめた。

その結果から、致死率は約4000万人が死亡したとされるスペインかぜ (1918年) よりは低いが、アジアかぜレベルの強さがあると見ている。感染力についてはスペインかぜなど過去の新型インフルエンザに比べると、同等かやや低いが、季節性のインフルエンザよりは高いと見られるとしている。

流行は2月中旬にメキシコ・ベラクルス州のラグロリアで始まったと見られ、この地域では15歳未満の61%が発症したのに対し、15歳以上は29%の発症率にとどまっていた。研究チームは「重症度は、国の医療事情などによって変わるだろう。今後も、詳しい症例データを収集する必要がある」と指摘している。

豚インフルエンザは英語で？

鳥インフルエンザは英語で？

インフルエンザと風邪はどう違う？

課題9. この記事の(1)書誌事項をSIST02で記し、(2)400字程度の日本語に要約する。

課題10. 以下の新聞記事中に出てくる『ネイチャー』の記事本文の(1)書誌事項を記す。(2)最初のページにある写真に説明(〇〇を初めて見る人のための)をつける。

毎日新聞 2007年2月23日

科学誌ネイチャー、「あるある捏造」問題を掲載

フジテレビ系「発掘!あるある大事典2」のデータ捏造問題を英科学誌ネイチャーが2007年2月22日付号で報じた。「研究者がマスメディアに自分の研究内容を話したとき、どのように事態が間違った方向へ行ってしまうかを日本のテレビ番組を巡るスキャンダルが示している」と伝えている。

課題11. 下記新聞記事中に出てくる『ネイチャー』の論文を(1)どういう手順で探すか、探索前に手順を複数考えてメモを作る。(2)実際に探した手順および探すのに利用したtool、その他参考にしたものがあれば、使用した順に記入する。(3)この論文の書誌事項を記す。(4)この論文の最終ページに出てくるAcknowledgement、Author contributions、Author information全文を和訳する。

毎日新聞 2008年4月27日 東京朝刊記事

メキシコ湾流：大気の長期変動に影響 地球温暖化探るカギに

北大西洋を流れるメキシコ湾流が、約10キロ上空までの対流圏の大気全体に長期的な影響を与えていることを、海洋研究開発機構や北海道大の研究チームが明らかにした。大規模な影響は欧州など遠隔地へ及んでいる可能性もあり、地球温暖化の影響を探る上で重要という。

メキシコ湾流は黒潮と並ぶ北半球最大の海流で、熱帯地方の熱を中高緯度地方に運ぶ役割を担っている。この熱は雲や低気圧の発生など数日程度の短期的な気象に影響を与えている。しかし、1カ月以上の長期的な気候にどのように影響しているのかは不明だった。

見延庄士郎・北大教授(気候学)らは、高解像度の人工衛星観測データや、スーパーコンピューター「地球シミュレータ」によるシミュレーションを組み合わせで分析。メキシコ湾流に沿った上空約10キロまでの対流圏全体に、年単位の気温や風速の変化があることを発見した。

上昇流は対流圏上層にまで達していた。この規模の風は地球全体に及ぶ大気の波を生み、遠く離れた地域に影響することがある。見延教授は「今後は、より複雑な黒潮が大気に及ぼす影響も明らかにしたい」と話している。英科学誌ネイチャーに発表した。

課題12. 下記新聞記事中に出てくる『ネイチャー』の記事本文の(1)どういう手順で探すか探索前に手順を複数考えてメモを作る。(2)実際に探した手順および探すのに利用したtool、その他参考にしたものがあれば、使用した順に記入する。(3)書誌事項を記す。(4)この論文のp.4に出てくるAcknowledgementを和訳する。

毎日新聞 2007年5月9日

ゆっくり地震：規則性発見、エネルギーと揺れ時間が比例 巨大地震予測に道も4種類のゆっくり地震の主な観測場所//小さな揺れが0.1秒~1年間続き「ゆっくり地震」と総称されてきた4種類の奇妙な現象に、共通の規則性があることを日米の研究チームが発見した。研究チームの井出哲東京大講師(地球惑星科学)は「地震は通常のタイプと、ゆっくり地震の2グループに分けられる。この視点で過去の地震を検証し、発生過程の解明に役立てたい」と話す。研究成果は3日付の英科学誌ネイチャーに掲載された。